

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590800086		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム岩国平田		
所在地	山口県岩国市平田5丁目27-55		
自己評価作成日	平成27年10月24日	評価結果市町受理日	平成29年3月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家は、全国240箇所以上のGHを展開させて頂いております。愛の家グループホーム岩国平田は、中四国九州エリアと地域としては広いですが、他の愛の家との情報共有が行える体制を作っており他ホームへの行事手伝い・新卒同期の研修等連携を図っております。又、ホームでの「夏祭り」等を通じて、地域との連携を意識した運営を実践しております。現在はスタッフ数も充実しておりますので、「その人らしい生活」が営まれる様、個別支援に関しても、対応しております。若手スタッフも多く(平均年齢32歳)、全体の半数以上が20代となっている為、各行事では「若さ・元気」いっばいで盛り上げていております。経験不足な面もありますが、そこはベテランスタッフがフォロー・アドバイスすることで、各々のマイナス面を補い合う関係構築をしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は、地域の盆踊りや敬老の集い、どんど祭りに参加されたり、近隣施設の行事へ参加して交流されている他、事業所主催の夏祭りには、たくさんの近隣住民が訪れて交流されています。ボランティア(コーラス、フラダンス、押し花でうちわやはがきづくりなど)の来訪や高校生の実習の受け入れ、地元の幼稚園児が年3回訪問されてプレゼント交換やお遊戯を披露されたり、散歩時に近所の人と挨拶を交わされ、野菜の差し入れを受けておられるなど、「地域の懸け橋になる」という理念にそって、事業所自体が地域の一員として日常的に交流を深めておられます。利用者の趣味や嗜好に応じた数々のレクリエーション、以前の仕事を活かした生活リハビリ、散歩や地域の祭り、季節の花見やドライブ、職員が外で待機して百円ショップで自由に買い物したり、個別の希望にそった広島カープの二軍練習場、星野哲郎記念館、安芸の宮島、音楽コンサートに行くなどの外出など、利用者のしたいことや好きなことを見つけられて、楽しみごとや活躍できる場面づくりをしておられ、利用者が張合いや喜びのある日々が過ごせるように支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「錦帯橋のように私たちは地域の架け橋になります」という事業所独自の理念を各ユニットに掲示し、又各ユニットでケアに対する拘りを決め、合わせて掲示しております。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、理念を基につくった各ユニットの目標と一緒に事業所内に掲示している。管理者と職員は理念を共有して、日々のケアの中で実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入し、町内会の清掃・運営推進会議の参加の声掛け・地域イベントへの参加等を行っています。又、近隣ケアハウスと連携し、各々のイベントへの参加・近隣幼稚園の定期訪問・夏祭り等ホームへ足を運ぶ機会を設けております。	自治会に加入している。管理者は総会に出席し、職員は河川清掃に参加している。地域の盆踊りには、夜間、職員が勤務調整をして、利用者と一緒に出かけている他、敬老の集いやどんど祭りに参加している。近隣のケアハウスの秋祭りに、事業所のテントの貸し出しや、イベントに参加して交流している。事業所主催の夏祭りには、近隣住民100人位が訪れ、手品や和太鼓演奏のボランティアも参加して交流している。ボランティアの来訪（コーラス、フラダンス、押し花でうちわやはがきの作品づくりなど）、高校生の実習、地元の幼稚園児が年3回来訪して、プレゼント交換や遊戯の披露をしている。近所の人と、散歩時に挨拶を交わしたり、花や野菜の差し入れがあるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域自治会に入会させて頂き、地域の夏祭りや、敬老のつどい等に進んで参加しております。又ご家族様・地域の方々からの相談・問い合わせに対し、真摯に対応しております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回同様、評価して頂いた内容を全スタッフに周知し、又前回同様、全スタッフが前回内容を参考に作成に携わってもらっています。	管理者は、職員に評価の意義を説明し、自己評価をするための書類を配布し、前年度の評価結果を基に職員全員で取り組んでいる。前回の外部評価結果を受けて、目標達成計画を立てて、運営推進会議を活かした取り組み、事故防止の取り組みや事故発生時の備えについて、検討している。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回必ず運営推進会議の開催を行っていますが、ご家族様の参加が少なく、都度案内させていただいております。現在は日程変更をしながら、対応しております。利用者様・スタッフにも参加していただき、各々の積極的な意見収集に努めております。	会議は年6回開催している。行事報告、行事予定、看取りケアについて、家族アンケート報告、事故、防災について、夏祭りの案内について等説明し、話し合っている。参加者とは、防犯上の問題提起をして、センサーライトやカメラの設置について意見を交わしている。参加メンバーの拡大について、家族や自治会長、近隣施設等の参加を呼びかけているが、実現には至っていない。	・参加メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談等あれば、電話や直接出向いて助言を得ています。又、市からの伝達等に関しても、メール・FAX等で随時確認し、市が主催する集団指導・年1回開催される市内GH協議会との話し合いにて意見交換をしております。	市担当者とは、電話や直接出向いて相談したり、事故報告時、集団指導への出席時、グループホーム協議会参加時に情報交換を行い、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話で事例の相談や情報交換を行うなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体のマニュアルもあり、身体的な拘束だけでなく、言葉による拘束もあると全体会議などの時間を使い話し合いを行っております。又、不適切なケアについても注力しており、随時研修を行っております。	法人の「身体拘束の基本方針」を基に内部研修を実施し、職員に「老人ホーム虐待問題」に関する冊子を回覧しているなど、職員全員で理解を深めており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロック等については、2か月毎に事業所独自の「チェックシート」での自己評価を職員全員で取り組み、リーダー会議等でも話し合うなど、日頃から気をつけている。玄関の施錠はしていない。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体のマニュアルもあり、言葉・身体・投薬等の虐待にあたる勉強会を行っています。又些細な傷に関しても、必ず状況を確認し、虐待に繋がらないケアを実践しております。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、2名の方が成年後見人制度を利用しています。成年後見人の方に、運営推進会議内にて、制度に関するミニ講演をしていただき、参加可能なスタッフも話を聞かせていただきました。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、ご家族様と重要事項説明書の読みあわせを行い、都度不明点などの確認を行っております。又、改定等の説明、疑問を抱かれておられるご家族様へは、個別で説明をし、理解していただいております。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社全体の相談窓口を設けており、意見箱の設置もしています。また、本社主催のご家族様アンケートを毎年実施しており、ホームにフィードバックされ改善に向けています。2回/年の家族会において、茶話会の場面に、個別にお伺いしております。	相談、苦情の受付窓口や担当者、外部機関を明示し、苦情処理の手続きも定めている。運営推進会議時、年2回の家族会、年1回の家族アンケート、面会時、行事開催時、電話等で家族の意見や要望を聞いている。利用者を担当している職員が、毎月1回、管理者からの挨拶、利用者の様子(生活の様子・サービス内容・医療、健康面)、意見や対応などの「お知らせ」を家族に送付している他、面会時には、利用者の現状を細かく伝えるようにして、家族からの意見が出やすい関係づくりに努めている。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回スタッフとの個人面談を実施し、全スタッフから意見・要望等を聞き取りしております。毎月1回の全体会議やユニット会議でスタッフ同士の意見交換や提案などの反映も行っております。又都度現場に足を運び、個別にスタッフからの意見収集をしております。	年2回の個別面談、月1回の全体会議、各ユニット会議等で、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は、個人面談以外にも、職員に直接声をかけるなど意見を言いやすい環境を整えている。夜間入浴の支援についての提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を通じて、それぞれが「やりたい事・特技」を委員会として実践しています。大きな行事には、実行委員会を設け、全員で1つの行事に取り組み、達成感を感じてもらっています。無資格のスタッフには、会社制度を利用しての資格取得を促しております。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内があれば、都度回覧し参加を促し、内容によっては、こちらから指定し、研修誘導しております。又、毎月本社からの資料を基に、内部研修を実施し、新卒者に対しては、毎月エリア新卒者と合同での研修を実施しています。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて受講の機会を提供している。参加者は報告書を提出し、必要に応じて全体会議で復命報告している。内部研修は、全体会議の中で勉強会(防災対策、事故予防、食中毒防止、虐待防止、認知症について、コンプライアンス等)を実施している他、管理者が中心となり、ディスカッション形式(気づく、チームケア、情報共有、視野を拓ける)で職員全体のスキルアップを図っている。新人職員は、法人での研修とユニット毎の個別指導を行っている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩国市のグループホーム協議会に入会させて頂き、情報共有しています。又、定期的に居宅・老健等に訪問をし、情報交換・収集に努めております。近隣施設とは行事等通じて、密に交流を図っております。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントに行かせて頂き、ご本人様にお話をさせていただき ご本人様やご家族様が困っていることや、不安なことなど傾聴する事で、安心して過ごして頂けるよう努めています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時には、ご家族様が不安なく利用者様を入居出来るよう説明を行い、いつでも相談できるような関係作りを構築しています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様が必要としている支援を見極め、必要に応じ介護用具のレンタル等実践しております。又、サービスの変更(入院等)があった時などは、都度相談し、変更しています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の不安な気持ちなど察し、ゆっくりと傾聴し共感できるような関係作りを行っています。スタッフ数も増え、より充実した時間を構築しております。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の日々の状況などテーマを決め、又毎月の新聞発行と共に、お手紙を送付しています。ご家族様来所時には、コミュニケーションを通して細かな状況を伝えるようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院などに出かける機会・入居前に住んでおられた町へのドライブ、又馴染みの関係の方の来訪などがあります。今後も関係が継続していけるような関係作りを支援してまいります。	家族の面会、兄弟や親戚の人、近所の方の来訪がある他、電話や暑中見舞い、電話での交流を支援している。馴染みの美容院の利用、以前住んでいた家へのドライブ、家族の協力を得ての墓参り、法事や葬儀への出席、一時帰宅、外出、買い物、外食など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全入居者様が出来る合同のレクリエーション・各ユニット毎のレクリエーション・個別に傾聴したり歌を唄ったりする個別レクリエーション・両ユニット合同食事会等通じて、仲良く出来る様、努めています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院にお引越しをされた際、ご本人様・ご家族様には「何かお困りの時には、いつでもご連絡ください」と声掛けを行っています。退居後も、運営推進会議・ホーム訪問等継続してお越しいただいています。必要に応じ、転居先に連絡をしたり訪問等行っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様のお話の中から、意向をお聞きしています。そして、ご家族様との面会等の中から意向の把握に努めており、コミュニケーションの難しい入居者様の把握についてはご家族様に聞き、把握に努めています。入居前には、紹介して下さったCM等から、情報収集をしています。	事業所独自のアセスメント表、入居者状況票を活用している他、日々の関わりのなかでの利用者の行動や言葉を介護記録に記録し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族参加のサービス担当者会議や職員間のカンファレンスで話し合い、本人本位に検討している。	・思いや意向の把握の工夫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の生活歴や馴染みの暮らし方など、多方面からの情報収集に努めています。又、回想法等用いて、情報収集に努めております。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各勤務に入る前の申し送りやカンファレンス等で、日々の状態の把握に努めています。又各ユニットに「健康シート」を設置し、ご入居者様の健康管理を共有しています。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書は、社内で決められた様式があるので、その様式に沿って作成しています。また月に回のユニット毎のカンファレンスや困難事例に関しては、全体会議内、半年後とのスタッフによるモニタリングやアセスメントを作成、その他年2回の家族会での意見を元に、計画作成を行っています。	毎月1回各ユニット会議を開催し、計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に、利用者や家族の意見、主治医、看護師からの意見を参考に、職員全員で話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しをしている他、利用者の状態に変化が生じた場合にはその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録・日報に加え、申し送りノート・健康シート等などで、職員間での情報共有を図っています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のご希望に添えるよう来所時などにコミュニケーションを図り、意見を聞くようにしています。ご本人様との会話の中で、希望に添えるものはないかと日々支援しています。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーへ買い物に一緒にお連れしたり、近隣の散髪屋へカットに行ってます。又、近隣幼稚園との交流会やボランティアの受け入れをし、楽しく生活できるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院であるいしい記念病院・山元歯科に加え、2週間に1度のいしいケアクリニックDrによる往診があります。往診医とは、24時間連絡可能で緊急時も駆けつけて下さる関係が出来ています。又、ご利用者様の状態に応じ、系列訪問看護の契約をしていただき、個別看護をしております。	事業所の協力医療機関の他に、利用者や家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関から2週間に1回の往診があり、緊急時は、24時間オンコール対応をしている。その他の医療機関へは家族の協力を得て受診の支援を行っている。歯科は定期受診があり、希望によって訪問診療もある。事業所の看護師が利用者の日頃の健康状態を把握し、情報を医療機関に提供するなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医の24時間連絡体制と社内雇用の看護師との連携体制で利用者様の定期的な体調管理を行っています。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、サマリーを作成し、病院への情報共有し退院時は、看護サマリーを作成していただき、情報の共有が行えています。又、入居者様が入院中は、スタッフがお見舞いにも行かせて頂いています。病院での状況を聞き、当ホームスタッフに伝えおり、退院後は状況に応じたケアプランの元、ケアをしております。一日も早く退院していただける様、ご家族様・病院と連携を図っております。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見学时や契約時に、看取り対してご家族様の想い、ホームでの対応について、お話をしています。又折をみては、ご家族様の「想い」を確認しており、終末期の方に対しては、ご家族・往診医・必要に応じ訪問看護等と連携し、対応しています。ご家族様の希望があれば、ホームに泊まっていただいております。	指針があり、契約時に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合には、利用者や家族の意向を踏まえた上で、かかりつけ医と相談し、方針を決めて全員で共有し支援に取り組んでいる。看取りの支援もあり、職員は資料を用いて看取りの研修を受け、主治医の指示により対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	主にヒヤリハット・事故報告書を基に、同じ事故が起こらない様、取り組んでいます。又、各ユニットにマニュアルを設置・急変時等には対応表を掲示し、誰もが対応出来る様配慮しています。全体会議内でも、事故防止・予防の研修を実施し、全員に資料を配布、必要に応じ確認してもらっています。	事故報告書、ヒヤリハット報告書に記録し、管理者がコメントを記載し、各ユニット毎に配布して確認している。全体会議で検討し、事故防止に取り組んでいる他、再発防止策として、随時カンファレンスを行い、職員のスキルに合わせた個別指導も行っている。事故発生時の備えとして、急変時対応マニュアルに沿って誤嚥の対応などについて学習しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、夜間を想定したものを含め、年2回開催しています。各ユニットにマニュアルも設置、夏祭りを通じ、近隣の方の訪問時、直にソフト面・ハード面を見ていただき、近隣の方々との信頼関係構築に努めております。又、近隣防災センターへご利用者様と一緒にいき、疑似体験をしております。	年2回、(1回は消防署の協力を得て)昼夜間を想定した避難訓練や消火訓練、通報訓練、避難経路の確認などを、施設長、近所の人、利用者が参加して実施している。備蓄品として3日分の食料や、みそ汁、水などを用意している他、近隣の防災センターで地震や煙、津波等の疑似体験に利用者と一緒に参加している。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居前、入居後とアセスメントを行い、その人らしいケアについて、定期的にカンファ・サービス提供者会議を開催しています。又、スピーチロック・不適切なケア等、定期的に年間計画に沿って、社内研修・スタッフ間でのディスカッション等実施しております。	職員は、リーダー会議やユニット会議の中で、日常のケアでスタッフ側の都合になっていないかを話し合っている。「不適切なケアとは」、「プライバシー保護・権利擁護」、「倫理及び法令遵守」について学び、利用者一人ひとりの自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の表情・心の声に耳を傾け、口に出せない要望や悲しみ・苦しみなど受容できる様、心掛けております。又、必要に応じ、ご家族様からの情報収集に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の意思を尊重し、その人らしい自立した生活が安心して送れる様配慮しています。起床から食事・入浴等、生活全般の中で、その人の生活習慣を尊重した支援を心掛けております。必要に応じ、個別支援を実践しております。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容・入浴後入居者様が着たいと思う服装と一緒に選ぶなどし、いつも若々しい気持ちで過ごせる様にしております。又、お出かけに行く際には、お化粧品などの支援も行っています。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは、社内で決められた物を使用しています。又、下ごしらえ・食事の盛り付け・トレイ拭き・食器洗いなどスタッフと共にしております。朝食にパンを食されておられた方に対しては、個別での対応・ご家族様からの差し入れ提供・外食等、食事が楽しめる様支援しております。	専任の調理スタッフを確保し、法人の管理栄養士の献立を基本に、畑で収穫した野菜や差し入れの野菜を使って、栄養バランスのとれた食事をじぎょうしょでつくっている。利用者は、買い物や野菜の下ごしらえ、酢飯をうちわで扇ぐ、油揚げに酢飯を詰めていなりずしをつくる、盛り付け、味見、配膳、食器洗いやお盆拭きなど、できることしている。利用者と職員は同じ料理と一緒に食べている。季節に応じた行事食、個別に一品付けた誕生日食、一口カステラやホットケーキ、たこ焼き、かき氷などのおやつづくり、お花見弁当、年3回の外食、祭りに出かけて屋台で買って食べたり、家族の協力を得て外食支援をしているなど、食べることの楽しみを色々と工夫して、食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様に合わせて食事の盛り付け量・食器等で工夫しております。又、苦手な食べ物などメニュー変更し、入居者様が完食できるよう支援を行っています。水分摂取量に関しては、都度量を記入し、把握に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、ご自身で出来る事は行っています。義歯の衛生管理も都度行っています。又、唾液がしっかり出る様、意識して話しかけております。ご家族様の希望があれば、外部歯科の往診を受けていただいております。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用に関しては、安易にオムツを使用せず、定期トイレ誘導・パット使用等ご家族様と相談しながら、段階を踏んで検討しております。又、排泄チェック表で、排泄パターンの把握・誘導の目安として活用し、常に「自立」を意識しております。都度再考し、紙パンツから布パンツへの変更も実施しております。	排泄チェック表でパターンを把握し、時間を見図りながら声をかけトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄チェック表から個々の排便状況を把握し、各出社時申し送り時などに情報の共有を行っています。又ラジオ体操・風船バレーなど適度な運動や、水分量の把握・飲むヨーグルト飲用等、体調管理に努めております。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2～3回の入浴支援を行っております。入浴を拒まれる方へは、時間・曜日別のスタッフが交代するなどして、無理強いたくなく入浴して頂ける様、支援しています。又、男性スタッフが苦手な入居者様に対しては、女性スタッフが対応等しております。夜間入浴に関しては、今後の課題として認識しております。	利用者の希望に応じて、利用者一人ずつ湯を入れ替えて、ゆっくりと入浴できるように支援している。利用者の状態によっては、足浴やシャワーにも応じている。入浴したくない利用者には、無理強いしないで、職員と様々な対策を考えて対応している。今年度は、職員からの提案で、利用者がぐっすり眠れるよう夜間入浴の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、眠れない方への安眠方法として、暖かい飲み物の提供を行い、一緒に過ごしお話を傾聴するようにしています。寝ることを優先せず、ゆっくりと過ごしていただいております。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局薬剤師・看護師等から都度必要に応じ、確認をしています。又服薬マニュアルに添った服薬・変化が見られた際の様子観察など、「健康シート」に記載し、継続した対応を心がけています。又その人に合った服薬方法を実践しています。7月には、全スタッフ対象に、薬剤師からの勉強会を実施しています。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の食事準備・片付け・洗濯・掃除等、入居者様の嗜好などをご家族にお聞きし、ホームお手伝い等して頂けるよう支援しています。又将棋や囲碁が好きな方には時間を見つけて、スタッフとコミュニケーションを図りながら指しております。又、園芸・畑作り等通じ、自然と触れ合う環境整備に努めております。	買い物や散歩、外出、幼稚園児との交流、新聞購読、折り込みチラシを見る、図書館の本を借りて読む、ちぎり絵、はり絵、季節の作品づくり、日記をつける、テレビやDVD視聴、習字、漢字や計算の脳トレ、園芸(トマト・サツマイモ・ピーマン・きゅうり・なすびなど)、畑の水やり、草取り、繕いもの、押し花でうちわやはがき作品づくり、囲碁、将棋、トランプ、オセロ、エレクトーン演奏、元教員だった利用者が職員の子どもの夏休みの宿題を見たり教えたりする、歌を歌う、カラオケ、二胡やサックスの演奏を聴く、ラジオ体操、口腔体操、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の支度、後片付け、掃除機をかける、ゴミ捨て、ゴミ箱づくり、職員と個別にコンサートに行く、、広島カープ二軍練習場での試合観戦、百円ショップでの買い物や電化製品の店では従業員に質問しながら買い物をするなど、一人ひとりのしたいこと、好きなことをみつけ、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ・買い物・散歩等、ご入居者様にお声を掛け、出来る限り外出の機会を設けております。個別に馴染みの美容室でのカットや、外の空気を吸いたいとおっしゃられる時は、付き添わせていただいております。スタッフ数も増え、特に個別支援に対しても、ご本人様のニーズ把握、実践を心掛けております。又、定期的に行っている外食に関しては、嗜好に合わせたお店を選び、実施しております。	近隣への散歩や買い物、地域の祭りへの参加、季節の花見(桜、菖蒲、バラ、紅葉)、ドライブ(夏の大島、潮風公園、イルミネーション、山賊の季節飾り)に出かけている他、百円ショップで自由に買い物できるよう、職員が出口で待機しながら見守ったり、電化製品の店では従業員に質問しながら買い物をする、広島カープの二軍練習場、星野哲郎記念館、安芸の宮島、音楽コンサートなどに職員と個別に外出して気分転換を図っている。家族の協力を得て墓参り、法事や葬儀への出席、一時帰宅、外出、買い物、外食など、日常的に戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは、ホーム内金庫でお預かりさせて頂いておりますが、ご本人様のご希望により、お財布に多少のお金をお持ちの方もいらっしゃいます。都度ご本人様が要望される物品を確認・一緒に買い物等へ行っております。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、ホーム内新聞送付時、入居者様からご家族様へ向けてのお手紙を書いていたいただき、送付しています。ご家族様が知り得たい情報の内容記載を意識し、毎月テーマを変え記入しています。ご本人様が、電話を掛けたい時にも速やかに対応しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室や廊下等に、行事・日常生活の様子など写真掲示し、ご入居者様やご家族様が楽しめる様、工夫しております。裏の畑や玄関先には季節の野菜・花を植え、ご利用者様と一緒に水遣り等しながら、季節感を感じる様にしております。土地柄寒暖の差がある為、ご利用者様の状況を把握しながら、空調調整を行っております。食卓にはお花を設置し、入居者様に喜んでいただいております。	共用空間は、広く、テーブルや椅子、ソファを、利用者が活動しやすいよう配置している。テレビやレクリエーションの道具のあるホールには、ゆっくりくつろげるソファを置いて、壁には、利用者の作成した季節作品や大きく引き伸ばした活動写真などが飾ってある。台所からは、調理の音や匂いがして生活感があり、テーブルには季節の花を飾り、温度や換気、明るさ、音に配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットホールのソファにゆっくりと寛いでおられ、時には、居眠りをされる入居者様もいらっしゃいます。そして、仲のよい入居者様同士の会話を楽しまれたり、他ユニットの方との交流されたり等、思い思いに過ごしていただいております。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される前に、ご家族様にお話しさせて頂き、入居者様の使い慣れたものを持ち込み頂き、居心地良く暮らして頂けるような支援を行っています。室内で転倒のリスクがある方に対しては、ご家族様とも相談し、リスク回避に努めております。又、ベッドで寝られる習慣のない方には、敷布団を敷き休んでいただいております。	使い慣れた寝具類や整理タンス、仏壇、こたつ、小型冷蔵庫、電子レンジ、掃除機、テレビ、ラジオ、スピーカー、時計、椅子、本、ぬいぐるみ、人形、化粧道具、装飾小物など使い慣れたものを持ち込み、壁面には、家族写真、カレンダーなどを飾って、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じ、トイレ・居室にコールを設置しております。居室で過ごされる時には、いつでもコールを押せるような配慮をし、夜間は居室内・廊下共に夜光灯があり、足元を照らすので危険性のないような支援を行っております。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 愛の家グループホーム岩国平田

作成日：平成 29 年 3 月 20 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	5	運営推進会議を活かした取り組み	参加メンバーの拡大	・毎月のご家族様のお手紙の中で、参加を呼び掛ける。(現在実施中) ・近隣の方へ案内する際、別途手紙を添付、近隣他事業所へ参加の打診。(現在実施中) ・参加可能な日程調整。	6ヶ月
2	35	事故防止の取り組みや事故発生時の備え	全スタッフが実践力を身につける為の応急手当・初期対応の習得・定期訓練の実施。	・定期的な社内・外の研修。 ・近隣施設と連携を図り、普通救命講習を受講することで、各対応の習得(現在実施中)	3ヶ月
3	24	思いや意向の把握	思いや意向の把握の工夫	・特に新規ご入居者様に関しては、入居前のアセスメントの充実・入居後の定期的なご家族様の意向を確認していく。(現在実施中) ・その他ご利用者様へは、ご家族様面会時・アンケート等で確認・実践に繋げる。(現在実施中)	3ヶ月
4	36	災害対策	地域との協力体制の構築	・運営推進会議を充実することで、近隣住民の方々との連携を図る。(現在実施中) ・地域行事・イベント・自治会催し等に積極的に参加し、ホーム実態を確認していただく。(現在実施中) ・近隣他事業所との連携強化。(現在実施中)	3ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。